

事例番号:350202

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第五部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 2 日

9:15 反復帝王切開のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

12:55 帝王切開で児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 2 日

(2) 出生時体重:2700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.35、BE -6mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 1 日 活気不良、呼吸障害あり

生後 2 日 心不全、貧血、代謝性アシトシス、呼吸障害

(7) 頭部画像所見:

生後 31 日 頭部 MRI において、多嚢胞性脳軟化症を呈し、右後頭部に脳出血を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 3 名、看護師 1 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因を解明することは困難であるが、出生後の心不全によって多嚢胞性脳軟化症を発症した可能性を否定できない。

(2) 出生後、心不全が発症した原因は不明である。

(3) 脳出血が脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日、反復帝王切開目的の入院後の対応(分娩監視装置装着、バイタル測定)は一般的である。

3) 新生児経過

(1) 出生当日の管理は一般的である。

(2) 生後 1 日の対応(体温低下、活気不良のため保育器収容、哺乳不良のため経管栄養開始、呻吟、経皮的動脈酸素飽和度低下が認められたため B 医療機関 NICU へ搬送としたこと)は選択肢のひとつである。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】本事例は、生後 1 日に哺乳不良、呼吸障害、経皮的動脈血酸素飽

和度低下などが認められ、NICU 入院後に心不全と診断されている。新生児の心不全は、哺乳不良や呼吸障害が初期症状のこともあり、経管栄養開始により症状が増悪することもある。しかし、生後 1 日の哺乳不良から重篤な疾患を予測することは難しいことから、哺乳不良のほかに活気不良、呼吸障害、経皮的動脈血酸素飽和度低下などの症状が認められた場合の対応について検討することが望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

出生後に新生児が心不全を発症し、脳障害となるような事例の蓄積と病態の解明が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

出生後に新生児が心不全を発症し、脳障害となるような事例の蓄積と病態の解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体の支援が望まれる。